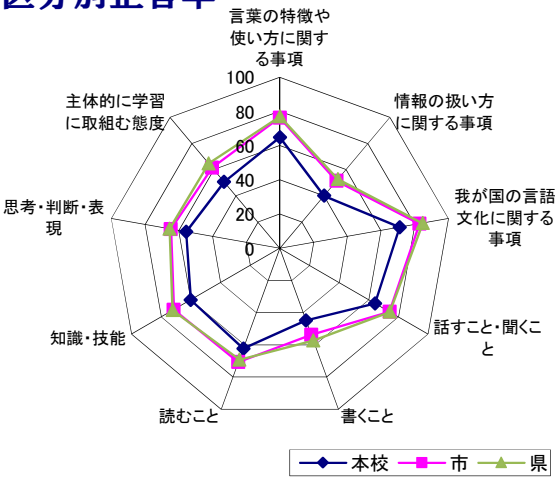


宇都宮市立宝木小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	64.9	76.4	77.0
	情報の扱い方にに関する事項	40.2	51.5	52.7
	我が国の言語文化に関する事項	71.1	82.8	84.7
	話すこと・聞くこと	64.3	74.1	74.2
	書くこと	44.7	53.7	57.2
	読むこと	62.2	70.7	69.2
観点	知識・技能	60.1	71.6	72.3
	思考・判断・表現	55.6	64.6	65.4
	主体的に学習に取り組む態度	50.7	61.6	64.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、県の平均と比べて低い。 ○漢字の読みは、県の平均と比べ、ほとんど変わりはなく、授業や家庭学習での音読の練習の成果であると考えられる。 ●文の構成(主語と述語)の問題では、正答率は52.6%で県の平均より、22.4ポイント下回っている。また、漢字を書く問題の正答率も49.5%で県の平均より17.5ポイント下回っている。	・日々の学習の中で、一つ一つの言葉を丁寧に扱い、難解語句だけではなく、知っている言葉であってもその意味を説明できないときには、積極的に国語辞典・漢字辞典、またはクロームブックを活用させるなど、様々な言葉に慣れ親しませる。 ・漢字をただ練習するだけではなく、授業の始まりに漢字を書く問題を意図的に入れることで、書ける漢字を増やしていく。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、県の平均と比べて低い。 ●国語辞典の使い方の問題は、正答率が59.8%で県の平均より11.7ポイント低くなっているが、国語辞典を使って調べる活動を行ってきたことで、調べることに対する抵抗は無くなってきている。 ●調べたことを文章にまとめる問題では、校内正答率が20.6%で県の平均より13.9ポイント下回っている。考えとそれを支える理由との関係を明確にすることに課題が見られる。	・国語以外の教科においても、いくつかの資料をもとに話し合う活動を取り入れるなどし、資料の見方に慣れるようにしていく。 ・条件にあった型に当てはめて考えを入れながら書く練習を通して、自分の考えを明確にすることができるようにしていく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、県の平均と比べて低い。 ●漢字のへんやつくりの問題では、授業において教材にでてる漢字で触れていて意欲的に調べる児童が増えた。しかし、校内正答率が71.7%で県の平均より13.6ポイント下回っており、へんやつくりについて理解している児童と理解していない児童との差があることが課題である。	・漢字を学習する時間には、漢字の読みや書きだけではなく、漢字のつくりやへんを確認する時間を設けることで、それらに慣れ親しむようにさせる。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、県の平均と比べて低い。 ○話し手が伝えたいことの中心を捉える問題では、校内正答率が73.2%で、県の平均より1.4ポイント下回っているが、大切なことを聞き取れている児童が多くなった。 ●話合いの内容を聞き取り、相手に伝わるように、自分の考えを理由を挙げながら話す問題では、正答率が52.6%で、県より18.6ポイント下回っている。	・何をどのように書けばよいかが分からない児童が多く見られるため、まずは例文を視写するところから始め、文章の書き方や型に慣れさせる。 ・条件にあった型に当てはめて書く練習を通して、求められている形で表現することができるようにしていく。
書くこと	平均正答率は、県の平均と比べて低い。 ●目的を意識し、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にする問題は正答率が県とほぼ同じだが35.1%と低い。また、情報と情報との関係について理解し、考えとそれを支える理由との関係を明確にして書く問題の正答率は、20.6%と低く、県よりも13.9ポイント下回った。段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く問題の正答率は、32%で県の平均より23.3ポイント下回っている。文章を書くことに課題が見られる。	・何をどのように書けばよいかが分からない児童が多く見られるため、まずは例文を視写するところから始め、文章の書き方や型に慣れさせる。 ・条件にあった型に当てはめて書く練習を通して、求められている形で表現することができるようにしていく。 ・書くことに抵抗がなくなるように、日記や感想文など書く活動を多く取り入れたい。

読むこと	平均正答率は、県の平均と比べて低い。 ○叙述を基に文章の内容を捉える問題では、校内正答率が76.3%で県の平均より1.1%下回っているが、ほとんどの児童が理解している。 ●説明文から情報と情報の関係を理解し、中心となる語や文を見付けて要約する問題では、校内正答率が40.2%と県の平均より11.8ポイント下回っている。	・現在取り組んでいる読書活動を生かし、物語文だけではなく、説明文も読む機会を増やす。 ・文章問題に慣れさせるために、プリント学習等で補充し、一人一人が大切なところを押さえながら正確な読みができているか確認していく。
------	--	---